

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		防犯対策事業		担当課 交通防災課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間 昭和48年度～
	施策	防犯対策の推進		種別 任意的事務
	基本事業	地域で行う防犯活動の推進		市民協働 共催
予算科目コード		01-020705-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市監視カメラ等の設置及び運用に関する要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
犯罪発生件数の増加傾向を懸念し、犯罪抑止環境の構築を目指して、行政・警察及び防犯関係団体が一体となって活動を開始した。	・防犯指導員（警察官OB）警察出向職員による、青色防犯パトロール、防犯出前講座、各自治会や防犯団体による地域パトロール活動の指導、育成等の助言を行う。 ・安全で安心できる地域社会を築くため、引き続き「地域安全・暴力追放市民大会」を開催し、市民一人ひとりの防犯意識の高揚を図る。 ・警察及び防犯関係団体（防犯連絡員、セーフティ・マイ・タウンチーム、少年指導員）と連携し、防犯情報の発信・共有（メールもりや、フェイスブック等のSNS活用）を図り、市民の安全安心を確保する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	・市内全域に設置されている防犯カメラを活用するとともに更なる増設や市公用車へ設置したドライブレコーダーを活用し、犯罪抑止環境の強化に努める。
（参考）基本事業の目指す姿	【実施内容】 警察官OB及び警察出向職員による防犯講話・訓練 20回 第10回地域安全・暴力追放市民大会 約270名が参加 メールもりや配信回数 30回 防犯カメラ増設数 20基 ドライブレコーダー設置数 116台 フェイスブック投稿回数
地域ぐるみの防犯活動が実践できるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
動く防犯カメラとして、市の公用車へドライブレコーダーを設置するとともに、公園や遊歩道を中心に20基の防犯カメラを増設し、犯罪抑止環境を強化する。	公園や遊歩道を中心に防犯カメラを20基増設した。また、防犯カメラの補完的役割として、市公用車116台へドライブレコーダーを設置し、犯罪抑止環境を強化した。／警察出向職員による防犯講話を積極的に行い、市民一人ひとりの防犯意識高揚に努めた。／防犯カメラを設置しているエリア（公園や駅前）について、防犯カメラが設置されているエリアである旨の看板を設置し、犯罪抑止環境の強化につなげた。／市民に防犯情報を発信する手段として広報紙やSNS、庁舎内のモニターを活用するなど、より多くの手段で防犯情報を発信したことで、多くの市民に防犯情報を提供することができた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
市内における刑法犯認知件数（年間）（件）	729.00	668.00	596.00	570.00	500.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	防犯団体による防犯パトロールをはじめ、防犯カメラやドライブレコーダーといった防犯施設の整備、防犯講話の拡大による市民一人ひとりの防犯意識高揚、防犯情報の発信方法の拡大等により、着実に刑法犯認知件数は減少しているため、成果は向上している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 □ 維持	■ 改善・効率化 ■ 統合 □ 廃止・終了	今後の刑法犯認知件数減少のためには、更なる市民一人ひとりの防犯意識高揚と警察・行政・市民・民間団体が一体となった防犯体制・取組が必要となるため、市民や他機関を巻き込んだ防犯イベントの拡充等を目指す。 ※次年度、取手地区防犯協会参画事業、市防犯連絡員協議会運営事業と統合			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	15,217	16,042	14,858	6,783	6,783
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	15,217	16,042	14,858	6,783	6,783
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	603.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	2,472	0	0
トータルコスト		15,217	16,042	17,330	6,783	6,783

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		青少年相談員事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間	昭和52年度～平成30年度
	施策	防犯対策の推進		種別	任意の事務
	基本事業	地域で行う防犯活動の推進		市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100401-06 単独	根拠法令・条例等	守谷市青少年相談員設置規則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
少年犯罪などが社会問題となり、警察ばかりではなく、地域で子供たちを非行や犯罪から守るため、昭和52年に青少年を見守る組織を結成した。	9名の青少年相談員が、青少年の健全育成を推進するため、夏休み防犯パトロールや5月から3月にかけて年に8回守谷駅周辺防犯パトロールを行う。 また、青少年を取り巻く環境を健全に保つため、「青少年の健全育成に協力する店」の登録・訪問などの活動を行う。「いばらき教育の日」では、「あいさつ・声かけ運動」のキャンペーンで守谷駅にて啓発活動を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
青少年の健全育成 青少年にとってより良い環境を整える。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域ぐるみの防犯活動が実践できるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
平成２７年に起きた川崎市の中１男子殺害事件の発生を機にパトロールを強化するよう通達があり、引き続き見守り活動を強化する必要がある。	平成２７年に起きた川崎市の中１男子殺害事件の発生を機にパトロールを強化するよう通達があり、引き続き見守り活動を強化した。「あいさつ・声かけ」の啓発活動にも積極的に参加した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
パトロールに参加した相談員数（人）	34.00	34.00	24.00	18.00	18.00
「青少年の健全育成に協力する店」の述べ登録数（店）	69.00	78.00	82.00	95.00	95.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下		平成２８年４月から青少年相談員の定員数を削減し、２０人から１０人にしたが、パトロール回数と「青少年の健全育成に協力する店」の登録店舗数は増えており、一定の成果を上げている。			
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☒ 廃止・終了		青少年相談員の事業費は報酬と一部の研修経費のみで、パトロール活動及び啓発活動や「青少年の健全育成に協力する店」の店舗訪問等については、ボランティアで行っており、必要最小限である。市議会の事業仕訳（平成２８年度）で廃止の方向となり、現相談員の任期（平成３０年度）満了で廃止することを予定している。以降のパトロール等の活動は、他の活動団体で行って行く。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	215	165	113	133	133
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	215	165	113	133	133
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	165.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	677	0	0
トータルコスト		215	165	790	133	133